



附属歯科技工士学校卒業おめでとう

附属歯科技工士学校長 岩久正明

まだ肌寒く、新潟で最も早咲きの技工士学校の目の前の駐車場の桜の蕾みがやっとやわらかさを感じ始めた4月初旬、期待と不安あいなかばといったかんで入学してきましたね。

あれからもう2年、瞬く間にすぎた気がします。でも、それが決して簡単に過ぎたのではないということをおなた方の顔が物語ってくれます。

高校を卒業してまだ間もない、あどけなさが残る様子がつい昨日のような気がします。先日たまたま実習室をたずねた折に見た、国家試験の勉強に取り組んでいるおなた方の顔は、きびしく、奥深く目的に向かって真摯にうちこむ頼もしさを感じました。

2年間は短いですが、おなた方にとっては十分に長く多くのものを得てきたことを知り、身の熱くなる感激を覚えました。

もちろん、おなた方が身に付けたものはその専門の内容からみればほんのわずかで、これからの長い人生のなかでやっとその1里塚に達した程度かもしれません。しかし、どんな分野も奥深く、進めば進むほどどんどんその先が広く、深く感じてきます。私自身この道に入ってそろそろ40年に近づいておりますがまだまだ迷うことばかりです。

しかし、おなた方はそんなことに悩むことはありません。この専門を進む立派な羅針盤を身につけたのです。方向を見誤らず、周りから沢山のものを積極的に、貪欲に取り入れながら知識と技術を太らせていくのです。

今は確かに就職先などいろいろな不安や若干の苦労はあります。しかし、この超高齢社会がおなた方を求めないはずがありません。人間の生きる意味は何でしょう。長寿の意義は何でしょう。唯ベッドに寝て天井をむいて息をしているだけではないはず。人間には生きることの尊厳があるはず。

「美味しく食べ、楽しく話す心豊かな長寿」を全うする多くの人たちのためにおなた方は専門を通じて大いなる貢献をすることになるでしょう。

人生は長い。もし、現在いささかの困惑のなかにあっても、真の目的を見誤ることなく進むこと。

時として、恩師、先輩、友人の門をたたくことも忘れずに。

おなた方が医療人として私たちの仲間入りをしたことを心より歓迎します。